

2024 年度

事業計画

2024年3月31日

学校法人 上智学院

はじめに

学校法人上智学院は、高等教育部門・中等教育部門の各学校および法人運営に係る中長期計画として、2023年度から2030年度の8年間を対象期間とする「グランド・レイアウト 3.0-2030 に向けて-」（以下 GL3.0）とその実施計画であるアクションプラン（以下、AP）を策定いたしました。2023年度からはGL3.0とAPに基づく年度事業計画を立て実施することで、法人の設置する各学校の運営を行っております。

GL3.0では、部門ごとに2030年までに達成を目指す様々な目標を掲げ、「2030年に向けた『10』のコミットメント」として具体的に提示しています。本「コミットメント」に示したように、デジタル・グリーン環境・サステナビリティなどの技術革新・事業変革が目覚ましい時代にあっても、本学院が具現化すべき基本理念を堅持しつつ、学生・生徒・教職員が一体となって教育研究を着実に推し進め、社会・地域への貢献も果たしていくことを目指してまいります。

このGL3.0の2年目に実施する年度計画として、以下の通り2024年度事業計画を策定いたしましたので、ここに公表いたします。

引き続き、本学院の各設置校の教育研究社会貢献の諸活動に一層のご理解とご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

目次

グランド・レイアウト 3.0 概念図／コミットメント	3
部門別取り組みの柱	4
GL3.0（部門計画・AP）および2024年度事業計画	
・大学部門	5
・短大部門	10
・中等教育部門	
栄光学園	11
六甲学院	13
広島学院	15
上智福岡	18
・法人部門	21
2024年度予算編成の基本方針	24
2024年度資金収支予算（学院）	26
2024年度事業活動収支予算（学院）	27

上智学院中長期計画「グランド・レイアウト 3.0 -2030 に向けて-

基本理念

「他者のために、他者とともに（For Others, With Others）」生きる人の育成
「叡智（ソフィア）が世界をつなぐ / Sophia - Bringing the World Together」を基盤とした教育・研究・社会貢献の実現

部門共通・3つの方針

1. 基本理念の具現化（世界の課題解決に貢献する教育研究の実践）
2. 選ばれ続ける学校としてのエンゲージメントの強化
3. 持続的な発展のための財務基盤・運営体制強化

2030年に向けた「10」のコミットメント

MAGISを目指す

上智学院とその設置校は、イエズス会学校としてカトリック学校としての伝統を堅持し、その特色を活かしながら、世界の課題解決や社会変化に積極的に対応することで、より良い世界の創造・世界の調和に貢献し、卓越した存在を目指します。

① GX・SXの推進による共に暮らす家（地球）への配慮

- カーボンニュートラルの実現
- ラウダート・シ/UAPs
- 持続可能な未来の創造に貢献



② DXによる新たな教育研究運営へのシフト

- 教育DXの促進
- DXによる運営の効率化



③ 共生社会実現への貢献（課題解決に向けた教育・研究の展開）

- SDGs/ESG投資
- 人間の尊厳 / 社会正義
- 全ての人のウェルビーイング



④ グローカルにつなぐ（地域や世界につながるグローバルハブに）

- グローバルワンキャンパス
- グローバルネットワーク
- 世界水準の研究



⑤ 教育機会拡大への貢献（他者に寄り添い、未来へつなぐ教育の展開）

- 新たな社会人教育
- 産学共同プログラム
- 社会的弱者の支援と貢献



⑥ DEI&Bの推進（ひとりひとりを大切に、安心・安全な学校に）

- 構成員の安心・安全・ウェルビーイング
- 障がい者採用 / ウーマンエンパワーメント



⑦ 社会・地域連携：エンゲージメントの促進（ステークホルダーとの対話・発信・連携・共感）

- 地域・企業・社会との連携
- ステークホルダーとのコミュニケーション
- 他の学校とのアライアンス



⑧ 迅速・柔軟かつ効率的な運営（マネジメントの精査）

- ガバナンス改革
- コンプライアンス
- データドリブンマネジメント



⑨ 学内融合と連動：エンゲージメントの強化（学校間の連携、教学・法人の連動）

- 各学校の連携
- 教学と人事・財務・施設・ICTの連動



⑩ 全員参加とコミットメント（ソフィアファミリー全構成員の共同識別と協働）

- 構成員への説明と意見聴取
- 学生・生徒（若者）とともに



【部門別】取り組みの柱

大学部門

Pride in Sophia Quality：人の育成、研究、グローバル社会への貢献という全方位に卓越するSophia Qualityの追求

・グローバル社会から信頼を得る総合大学として、世界水準の教育、研究を推進することにより、新しい社会の創造に貢献する
・卓越したグローバル教育と、自らがデザインし個の基盤を深める多層的な学びの場を提供し、“他者に寄り添うリーダー”たるSophianを育成する
・次世代教育・研究環境の確立、共生社会の具現化、ステークホルダーとの対話を通し、求心力のあるグローバル・ワンキャンパスを創成する

1. グローバルな視野とローカルな視点で他者に寄り添い、未来を創るSophianの育成
2. グローバル社会に貢献する世界水準の研究の推進・拠点の確立
3. サステナビリティを高水準で実現するグローバル・ワンキャンパスの確立
4. グローバル社会および多様なステークホルダーとの連携強化
5. 持続的発展を力強く支える組織、財務基盤の確立

短大部門

1. 地域社会の課題解決を目指す教育研究活動を実践する
2. 学生の進路選択を可能とする教育プログラムを充実する
3. 安定的な学校運営のための環境を整備する

中等教育部門

- I イエズス会学校であり続ける
- II 地域社会に魅力的な学校であり続ける
- III 教育環境／組織人員体制を整える

1. イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う
2. イエズス会教育を継承する、担い手を養成する
3. 上智大学との繋がりを持ち続ける

法人部門（学校法人運営基盤）

1. 持続可能な社会に貢献し、社会的責任を果たすための体制を強化する
(ラウダート・シを意識)
2. 豊かな学びを支える安心・安全・快適なキャンパス環境を整備する
3. 教育研究の持続的発展を可能とする財務基盤をより一層強化する
4. 組織力を高める人事政策を実行する

「2030年に向けた『10』のコミットメント」を実現するために、各部門が有機的に連携し施策を実施

大学部門

GL3.0 (部門計画・アクションプラン)	2024年度事業計画
1. グローバルな視野とローカルな視点で他者に寄り添い、未来を創るSophianの育成	
(1) 学び続け、主体的に考え行動する力を育てるSophia型「基盤教育」の確立	
① 全学共通、語学、学科科目の有機連携を実現し、社会情勢や学生の様々な希望進路のニーズに応え得る、基盤教育を確立する	<ul style="list-style-type: none"> ・ IR推進室との連携によるDP習得度、NPSにかかる調査の継続実施ならびに各学部への改善策等を踏まえたフィードバック ・ 全学共通科目のカテゴリー・レベルごとにおける既存科目の整理および様々なニーズに対応する新設科目の提案 ・ インターコンチネンタル・ラーニング (仮称) の構想具現化 ・ 全学共通英語 (選択) 科目充実に向けた検討 ・ 海外招聘客員教員担当科目の適正配置に係る検討 ・ 英語選択科目D群に係る方針の決定および2025年度導入に向けた検討 ・ 社会の要請に応じた科目 (地域連携に係る科目等) の検討 ・ 国際機関インターンシップのラインアップ充実、学生への「見せ方」整理 ・ パイロット実施プログラムの振り返り、科目化可否の検討および手続き
② 学生の自律した学びのデザインをサポートする、科目の体系化の推進、充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学部・学科への全学共通必修科目内容の周知および全学必修科目と連携したモデルカリキュラムに係る検討 ・ 変化する社会や学生のニーズに対応し得る全学共通、語学、学科科目連携の履修モデルの検討 ・ ポートフォリオの利用促進にかかる更なる検討
③ 学修時間や学びの深さを確保するため、科目数削減等を視野に入れたカリキュラムの再構築を検討、実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「学生の深い学びと単位実質化のための施策検討分科会」の答申に対する方針を踏まえた各学部での議論に沿った具体策の取りまとめ、ならびに実施に向けた中長期的なスケジュール案の策定 ・ 成績評価の新たなガイドラインの策定、カリキュラム点検に関する検証プロセス、クォーター制活用の検討にかかる教育企画小委員会での議論を踏まえた具体策の取りまとめ、ならびに実施に向けた中長期的なスケジュール案の策定 ・ 既存の全学共通選択科目のカテゴリー・レベルごとの整理
④ 多様な進路を視野に入れた大学院教育および体制のあり方について、専攻の特性を活かした対応策を立案のうえ実行する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博士前期課程 (修士課程) の1年コースの具体的な検討 ・ 早期卒業・修了制度増に向けた検討 ・ 出願期間、入試実施部等設定の柔軟な対応
(2) 多角的・俯瞰的視座の醸成に向けた学びや経験の場の提供と、全世界へのフィールド展開	
① 現代社会の課題に取り組む多様な実践型プログラムを構築し、より多くの学生へ機会を提供する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践型プログラム科目 (群) 構成の見直しと新設科目の検討 ・ 本学の建学の理念、教育精神を体現しうる全学共通科目の検討 ・ 2023年度教育イノベーション採択プログラムの2025年度単位化に向けた、イノベチームの教員と協働しての実現に向けた準備 ・ ANUプログラム (学生サミット) の科目化 ・ AJCU-AP内でのCOIL実現に向けた周知、マッチングの支援 ・ 学生のニーズ調査 ・ 実現可能性の高いプログラムのパイロット実施
② 国内外の大学との連携を深化し、学部、大学院における多様な教育、研究活動を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携を深化させたい協定校候補の検討・協議 ・ 実績のない協定の終了等整理継続 ・ 国際会議、協定校来訪時面会での情報収集 (継続) ・ 大学院特別進学制度、3+2プログラム協定締結候補大学の調査・選定 ・ ダブル・ディグリー/ジョイント・ディグリー・プログラム提携大学増設検討 (1~2校)
③ 次世代の教育方法の開発と検証を推進するとともに、柔軟な授業展開の仕組みを構築する	<ul style="list-style-type: none"> ・ COILやオンライン、海外大学・機関との連携等を活用したグローバル教育授業数増加に向けた検討 ・ 教育DX検討に向けた体制構築の検討 ・ FD委員会と基盤教育センター教育開発領域間での連携強化に向けた具体案の策定、機能統合に向けた体制構築の検討
④ ボランティアや教育プログラム等を含む多様な課外活動の充実を図り、教育精神の涵養とともに人間的な成長を促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動支援、課外活動団体支援等の拡充 ・ 域学連携等を活用した主体的な学びの機会の充実と効果検証 ・ 教育精神の体現につながる学びや企画の拡充

GL3.0 (部門計画・アクションプラン)	2024年度事業計画
(3) 高校生-大学生-社会人の多層的な学びの実現	
① 本学の特色を活かした教育プログラムを開発、展開し、年齢や国籍等を問わず学びの欲求に応える体制を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・「地球市民講座」のコンテンツ充実化と業務基盤の安定化 ・学外団体やSophia GED等と連携した高校生向けプログラムおよびスタディツアーの新規展開 ・「プロフェッショナル・スタディーズ」のさらなるコンテンツ充実と参画企業による満足度の向上 ・海外ビジネススクールとの短期ビジネスコースの稼働 ・OBOGを招いた講演会等の実施 ・海外ソフィアンによるトークイベント企画のほか、「アントレプレナーシップ養成講座」をはじめとするスタートアップやイノベーションにかかる教育プログラムの体系化
2. グローバル社会に貢献する世界水準の研究の推進・拠点の確立	
(1) 高水準の研究の推進と、それを支える人的および組織的体制の増強	
① 高水準、分野横断型の研究申請から採択後までを包括的に支援する事務体制を確立する	<ul style="list-style-type: none"> ・URAと職員の役割分担とそれぞれの機能強化を可能とする研究支援体制の構築 ・大型研究促進支援機能の強化による組織的研究環境整備の促進と個々の研究のスケールアップの促進
② 国際共同研究推奨施策を拡充する	<ul style="list-style-type: none"> ・外部専門機関を活用した、国際共著論文投稿促進支援策の実施
③ 研究費獲得、研究マッチング、研究遂行を支援・推進するURA (University Research Administrator) を配置する	<ul style="list-style-type: none"> ・URAチーム発足によるURAの役割・機能の整備
④ 教育・研究・大学運営・社会貢献のよりよいバランスを考慮した上で教員の研究時間を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ・バイアウト制度の運用状況のレビュー・更新および類似の仕組みの検討
⑤ 研究機構、附置研究所における中長期研究計画の策定とモニタリング体制を確立する	<ul style="list-style-type: none"> ・研究所（附置研究所を含む）の位置づけを明確にした上での、研究計画策定と研究成果の評価制度の検討
(2) 時代・社会の課題に応える本学の特色を生かした研究の推進	
① 時代や社会の要請に加え、現代のカトリック教会やイエズス会が取り上げる課題の解決に資する世界水準の研究を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・世界水準の研究推進に係る、戦略・優先施策の決定と推進
② 多様な分野・組織間の連携促進による分野横断型研究を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・分野横断型研究推進に係る、戦略・優先施策の決定と推進
③ 既存の国際研究ネットワークも活用し、本学の特色を生かした研究拠点を構築する	<ul style="list-style-type: none"> ・国際コンソーシアムへの多様な研究者の参加促進と研究成果の国際共著論文による成果発信の促進 ・本学の特色を生かせる研究テーマに関する研究の推進支援
④ 研究成果の公表および発信を強化し、研究力のレビュー・向上を実現する	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンアクセス化促進のための追加施策の検討 ・本学教員の発表論文に関するプレスリリースをはじめとする広報施策の促進
(3) 若手研究者、女性研究者支援の促進	
① 博士課程学生をはじめとする若手研究者および女性研究者支援制度を拡充する	<ul style="list-style-type: none"> ・博士課程学生向け支援の強化 ・若手研究者、女性研究者のための新たな支援制度の検討
② 研究倫理、研究公正、各種法令等に係る教育・支援体制を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・研究インテグリティにかかる情報収集と制度検討 ・研究倫理教育の推進

GL3.0 (部門計画・アクションプラン)	2024年度事業計画
3. サステナビリティを高水準で実現するグローバル・ワンキャンパスの確立	
(1) 多様性を尊重し、すべての立場の構成員が心地よく学び、働くことができる環境の確立	
①差別や偏見、ハラスメントのない誰にとっても安心できるキャンパスを構築する	<ul style="list-style-type: none"> ・課題把握のためのヒアリングや意見交換の場の提供 ・ハラスメント防止研修の実施（新任教職員対象の基礎研修、相談員・相談窓口研修、重点テーマの研修） ・学生向け各種啓発・防止セミナー等の実施
②ワンキャンパスを活かした多様な学生間の交流機会を提供する	<ul style="list-style-type: none"> ・SSIC (Sophia Student Integration Commons) で展開している学生交流企画の充実およびニーズ把握と振返りによる新規プログラムの開発 ・国際寮の教育プログラムの充実および成長実感の確認 ・サポーターによる、LLCやSSICを活用したイベント実施
③共生社会が実現されるキャンパス環境の整備を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語対応、専門家の強化 ・LGBTQに関する対応等の策定 ・正規生の留学生も含め、全留学生への対応につき継続して支援体制を整備 ・障がい学生支援の充実及び検証
④ひとりひとりが個性を發揮し、自らの人生を切り開くキャリア支援施策を構築する	<ul style="list-style-type: none"> ・早期化に合わせたガイダンス時期、内容の調整 ・障がい者向けガイダンス及びコミュニケーションに困難を感じる学生向け企画の実施（学外イベントの案内を含む） ・研究職向けガイダンス、後期課程学生向けガイダンスの実施 ・博士後期課程学生向けインターンシップ科目の開講（コンソーシアムへの加入） ・SGU後の留学生ガイダンスの見直し ・留学生に特化した新入生ガイダンスの実施 ・新規高学年向けキャリア科目の検証と今後のカリキュラム構成の検討
(2) サステナビリティ推進のための体制充実および取り組みの高度化	
①多様な学生が心身ともに健やかに学生生活をおくるための支援体制を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・こころの健康相談担当精神科医の増員 ・英語対応カウンセラーの増員 ・婦人科相談の継続的な実施 ・メンタルケアの強化 ・法律相談や学外講師による啓発セミナーの継続的な実施 ・学外有識者の知見の活用 ・学生相談室の増室 ・新執務室の検討および他大学等視察・ヒアリング
②学生の学びや社会情勢により柔軟に対応する奨学金制度を設計する	<ul style="list-style-type: none"> ・国の最新施策を踏まえた支援ニーズの検証 ・メリットベース（成績優秀者・大学院生・留学生等）支援の充実と振り返り ・各種奨学金の整理・統合の検討
③学生が提案する新たな取り組み等を実現に導く仕組みと学生および教職員（学教職）の更なる協働体制を構築する	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が企画する提案について精査する観点（継続性や学生の成長に資する内容であるか等）の整理と支援方法の検討 ・学教職協働によるプロジェクトの推進
(3) グローバル・ハブとしてのキャンパス機能のさらなる拡充と、最新のICTを活用したキャンパス環境の整備	
①学生サービスの向上や環境に配慮した情報管理のICT化を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・学生向けスマホアプリと予約システムの接続 ・健康管理システムの運用開始と初期調整の実施 ・学生ポータルサイト／アプリのリリース ・シングルサインオン導入による認証の統合化 ・セキュリティの高い多要素認証の導入 ・課外活動団体の施設利用申請システムの開発 ・シングルサインオン導入によるサービスの向上
②オンライン授業環境を充実させるとともに、ICTの進展にあわせた教育DX（新たな教育環境の整備等）を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・BYOD実現に向けたコンピュータ教室の整備 ・学生証ICカード化によるサービスの向上 ・シングルサインオン導入によるサービスの向上
③研究データ管理、研究インフラ整備、研究コミュニティの醸成などにおける研究DXの取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・研究データマネジメントポリシーの策定

GL3.0 (部門計画・アクションプラン)	2024年度事業計画
④図書館の学術情報収集・蓄積・提供機能の高度化に対応する	<ul style="list-style-type: none"> ・学術情報の電子化の推進（紙資料から電子資料へ転換、電子資料の優先購入など） ・学術論文等のオープン化推進に向けたルール等の策定・公表と研究者への周知 ・MyOPACのSSO化を含む利用者サービス向上を図るための図書館システム等の改修 ・新学術情報リポジトリのシステム方針の策定と予算申請 ・学術情報の集積、管理、発信の強化に向けた若手職員・図書館業務経験者の確保と育成 ・図書館システム端末と事務系システム端末の統合に向けた関係機関（図書館システム構築会社、情報システム室）との連携強化と実現必要項目の洗い出し ・オープンサイエンス時代に対応した図書館の将来計画および書庫・書架の新利活用と2階改修案の検討
4. グローバル社会および多様なステークホルダーとの連携強化	
(1) 多様なステークホルダーとの対話の充実	
①卒業生とのネットワーク強化を含む、ステークホルダー・エンゲージメントを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・合同OBOG交流会の実施 ・SFDPとソフィア会との連携で関連した正課外プログラムを検討 ・その他単発での合同企画を検討 ・卒業生との双方向コミュニケーションを活性化させるホームカミングイベントなどの検討着手 ・地方在住の保護者（後援会会員含む）と大学との対話・共感に資する機会の提供 ・海外を含めた卒業生同士のグローバルなネットワーキングに資する機会の提供 ・卒業生、保護者（後援会会員含む）、学生との対話を増やす企画、また、卒業生の多様なネットワークを活用した企画の実施 ・「上智大学通信」リニューアルの検討（2025年度リニューアル目標）
②近隣地域における知と活動の拠点として、自治体に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣機関（東京都・千代田区・麹町消防署・麹町警察等）との連携による、学生の実践を通じた社会貢献の実施
(2) IRおよび広報機能の強化によるレピュテーションマネジメントの実践	
①IRを活用したエビデンスに基づく決定と検証を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学生調査、10指標Ver.2の配布。学部学科からの分析依頼件数の増加 ・本学の研究力や研究レピュテーションに係るデータの分析
②グローバル・レピュテーション向上のための戦略的取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・世界ランキングに現れない価値を図るレピュテーション指標検討の継続 ・現行のアンケートを調査対象を広げて実施（回答数を50社を目指す） ・本学教員の発表論文に関する日英プレスリリースのタイムリーな発信と発信数の拡大 ・学部・研究科のWEBサイトリニューアル
③志の高い志願者の確保や、入学者の多様性を広げるための取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜志願者数を維持するための広報活動展開 ・既存の各種入試制度の再評価、整理統合そして再構築へ向けたWGの立ち上げ ・AAA、AAを活用した海外広報積極展開 ・AAA、AAを活用した地方広報積極展開 ・エリアプロモーションプロジェクト2年目（3県でのイベント実施継続）
④イエズス会中高4校および国内外の中等教育機関との連携を強化する取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・学部学科、関係各部署とを含めた対応方針の明確化 ・相互の訪問を通じた良好な関係の維持、構築
(3) 社会の課題解決に向けた産官および市民社会との協働の積極的推進	
①地域、企業、団体等と連携した先駆的取り組みを推進し、社会課題の解決に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ・社会実装につながる学外共同研究・委託研究の開拓・促進
②カトリック大学、イエズス会大学との連携を深化させ、教育研究を通じたグローバル社会の課題解決の取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年8月実施予定のGLPホスト校としてアジェンダセッティング、内容検討 ・SACRU、MIRAI国際研究ネットワークの活用 ・2025年2月に本学にて開催するIAJU国際教育会議実施に向けた全学体制の準備・実施 ・IAJU全体やAJCU-AP内の人的交流ネットワークの深化 ・ウクライナ受入れ学生の修業年限終了時までの支援継続 ・難民支援・開発地域への支援体制の検討

GL3.0 (部門計画・アクションプラン)	2024年度事業計画
5. 持続的発展を力強く支える組織、財務基盤の確立	
(1) Sophia Qualityを実現する教学組織の確立	
①中長期計画を着実に推進できる教学組織のあるべき将来像を検討する	・学長のイニシアティブのもと、大学全体としての戦略的取り組みの企画・推進を行う体制の整備
②教育や研究のコーディネートや支援、戦略推進に特化した教職員の拡充、および特命を帯びた教育・研究・社会貢献・大学運営で活躍する教員の負担軽減の仕組み等を図る	・実践型授業の展開、大学戦略に結びつく研究、公務等における貢献を、教育負担軽減や研究費増額等に反映する制度の検討・導入 ・URA、UEAにかかわる人事制度の整備
③大学諸施策の理解向上に努め、学部の枠を超えた教職員間、大学業務を担当する部局間、教職員間におけるコミュニケーションを活性化する	・対話機会の充実、コミュニケーションの場・ツールのあり方についての検討と試行
④教育・研究の質保証に係るPDCAサイクル・マネジメント体制を確立する	・学修成果の可視化に係る取り組みの継続 ・認証評価結果を踏まえた内部質保証体制の整備
(2) 持続的発展のための投資と大学運営の健全性のバランスを考慮した、短・中・長期を見据えた自律的財務・人事施策の確立	
①様々な取り組みの優先順位を明確化し、持続的な大学運営に資する経営資源の管理体制を構築する	・大学全体および学部・研究科等の戦略、大学全体の人員配置、学院としての人件費管理等の観点からの教員の採用・配置や資金配分のあり方・プロセスに係る総合的な検討
②教職協働に基づく大学運営体制を構築し、大学が取り組む事業へ戦略的に経営資源を配分する	・大学業務の多様化・複雑化に対応すべく職員を増強 ・職員の配置に際しての教学部門と人事部門との協議プロセスの検討
③大学部門の中長期の人件費管理のあり方についての再検討を行う	・中長期の人件費のあり方に係る指針の確定
④教育資源の最適配置を行う	・教学組織におけるより効率的な業務改革の実行 ・開講科目数やカリキュラムの見直し ・非常勤教員の配置の見直しと教学戦略に応じた特任教授等の配置の検討
(3) 教育・研究の新展開、学生支援、社会貢献を充実させるための事業立案と資金調達の実現	
①教育・研究における新展開、学生支援、社会貢献のための人的・財務的資源を生み出す	・既存プログラムの改廃や再構築、非効率な業務の見直しによるコスト削減目標の設定 ・事業継続を合理的に判断する基準やプロセスの策定
②収益源の多様化を図るべく、教育事業の展開や寄付獲得のための推進体制を増強する	・企業トップもしくは役員クラスの卒業生のネットワーキングの場の提供 ・エンディングノートの作成および卒業生対象イベント等での広報・配付 ・プロフェッショナル・スタディーズに続く、収益性の高い教育事業の新規検討と実装 ・SFDP構想内における各教育事業の体系化と収支計画の策定

短大部門

GL3.0 (部門計画・アクションプラン)	2024年度事業計画
1. 地域社会の課題解決を目指す教育研究活動を実践する	
①多文化共生推進のための教育プログラムを強化する	<ul style="list-style-type: none"> ・秦野キャンパス内実施の小学校外国語（英語）教育支援活動において、異文化理解の要素を入れた教材を活用 ・短期大学部生のみならず上智大学生や海外からの受入れ学生など多様なバックグラウンドを持つ学生に活動参加の機会を創出
②多文化共生推進のためのサービス・ラーニング活動を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ・秦野市における外国籍市民・児童への日本語・教科支援活動を拡大し、短期大学部生のみならず、上智大学生や海外からの受入れ学生などが活動に参加しやすいよう工夫の検討
③多文化共生をテーマとした学内共同研究プロジェクトを確実に推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・「上智大学短期大学部サービスラーニングの総括および展開への取り組み」のテーマのもと、サービスラーニング活動に携わる教員が研究を進め成果を発信
2. 学生の進路選択を可能とする教育プログラムを充実する	
①企業や編入学先大学で求められる水準まで英語力を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ・英語必修科目、英語選択必修科目、英語で学ぶ専門科目での学習とe-learningによる自発的な学習機会の提供
②キャリア講座を充実する	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア講座参加状況等の情報共有によるアドバイザー教員との連携強化 ・キャリア講座におけるリアクションペーパーの記入とそれに対するフィードバックという循環を活用した学生が効果を実感できる仕組み作り ・編入ガイダンスでの小論文講座の意義の告知 ・キャリア講座に参加しやすい授業時間割の編成
③進路に関する個別相談を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ・進路資料室を活用した相談会の開催等、相談しやすい環境の整備 ・就職活動ピーク前に全ての就職希望学生にメールで面談の案内を発信する等、個別の働きかけの強化 ・担当ゼミ内の全編入希望学生への教員の指導強化 ・受験可能校などの情報提供の充実
④グローバル社会の課題解決を考える英語プログラムを強化する	<ul style="list-style-type: none"> ・「上級英語スキルズ（SDGs）」をはじめとした、あるテーマ／トピックを中心に展開する英語選択必修科目（英語スキルズ科目）については、2024年度も開講する種類を維持し、選択できる授業の幅を確保
⑤学生の教養力と社会人基礎力獲得を目指し、読解力と文章作成力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ・読書方法に関する冊子の作成 ・作成した冊子に基づく「人間学Ⅰ」「基礎ゼミナール」での学生指導の実施
⑥社会が期待しているニーズを把握し、教育課程へ反映する	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎ゼミ」「人間学Ⅰ」でのプレゼンテーション力や文章力の向上
3. 安定的な学校運営のための環境を整備する	
①教育効果を高める学習環境の改善のため、同一法人下における施策の共有と標準化を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・学生証のIC化 ・海外短期語学講座、スタディツアーの大学・短大共同企画の実現
②キャンパスの利活用推進のため、事業外収益を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度に引き続き、外部団体への施設貸出を積極的に実施

中等教育部門

栄光学園

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2024年度
4 校 共 通 課 題	1.	イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う	(1)	カトリックであること	意思決定を行うプロセス(共同識別)に健全に参加する雰囲気を学校内につくる キリスト教的価値観、普遍的価値を知り、コミットすることができる倫理・宗教教育を実践する		・教職員研修会活用によるカトリック学校であることを学ぶ機会の設定 ・倫理科担当教員育成に関する協議の実施 ・新たに着任するチャプレンとの倫理・宗教教育の検討開始
			(2)	安全で健康的な環境をつくる	ハラスメントのない学校環境をつくる 教職員の働き方を検討する Cura Personalisを徹底する		・ハラスメントに関する教職員研修会開催の検討 ・教職員の勤務時間管理に関する継続的検討 ・教員と生徒との面談機会拡大
			(3)	Global市民の育成	生徒がGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができるカリキュラムを構築する 生徒が世界のGlobal化を体験する機会を設ける 生徒の英会話能力を向上させる 多くの社会問題がGlobalなものであることを理解し、解決する策を考える機会を設ける		・海外大学進学希望者へのオリエンテーション及びガイダンス実施 ・英文推薦書作成サポート体制構築に向けたアドバイザーとの協議実施 ・大学と連携した高校生向け英語ワークショップ開催の検討 ・大学で行われる高校生が参加可能なワークショップの情報周知徹底
			(4)	被造物に対する配慮	地球環境の問題を深く学ぶカリキュラムを構築する 地球環境保全のために実践できることを行う		・教科横断型のカリキュラム構築に向けた検討実施 ・図書館との連携による地球環境保全に係る日常生活に関する意識の醸成
			(5)	正義の促進	“For Others, With Others”の真の意味を学ぶ機会を設ける “Others”とされる人々と直接触れ合う機会を設ける “Others”と呼ばれる人々がなぜ生まれるのかを深く学び、“Others”の問題を解決するためにどんな方策があるかを考える場を設ける		・弱い立場に置かれている人々と出会い関係性を構築する機会となる教育プログラム(体験活動)の実施 ・難民支援施設などとの協力関係構築に向けた協議の促進 ・倫理科のカリキュラムを中心とした“Others”の問題について考える場の設定継続
			(6)	全ての人がアクセス出来る	学校納付金の適正なあり方を検討する 奨学金を充実させる 近隣の人々に開かれた学校とするための方策を考える		・栄光イエズス会奨学金の継続的支給 ・寄付金制度(未来Eiko募金)の集金力向上にむけた具体策の継続的検討
			(7)	文化相互性	自国の文化を深く学び、世界の多様な文化を知る機会を設ける		・高校3年生を対象とした歌舞伎教室の実施 ・高校2年生を対象とした沖縄の平和学習と地域交流をベースにした学年旅行の実施

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP	2024年度
4校共通課題			(8)	Globalネットワークに結ばれる	<p>イエズス会学校の“Educate Magis”を積極的に活用し、また、その活動に参加する</p> <p>イエズス会学校関係以外にも、適切な教育機関などとのNetworkに積極的に繋がる</p>	<p>・フィリピンのイエズス会学校Sacred Heart School, Areneo de Cebuとの生徒相互派遣プログラム実施</p> <p>・米国のイエズス会大学Boston CollegeのEver to Excel への生徒・教員派遣実施</p> <p>・海外のイエズス会高校に留学できる制度の検討</p>
			(9)	人間としての卓越性を追求する	「4つのC」を身につけることができる6年間の教育プログラムをつくる	・倫理科の現状カリキュラムにおける”4つのC”位置付けの確認と教職員間での周知に向けた準備
			(10)	生涯学び続ける	<p>卒業後も学校と関わりを持ち続けることができる組織をつくる</p> <p>同窓会、同期会などを通して、学校で学んだことを振り返り、分かち合う機会を設ける</p> <p>日本のみならず世界のイエズス会同窓会組織と結びつきを持ち、イエズス会教育に関する情報を共有できるようにする</p>	<p>・カトリック信徒同窓会活動と組織化への協力</p> <p>・卒業生のための黙想会の企画の実施</p> <p>・校内でのEducate Magisサイトの情報共有促進</p>
	2.	イエズス会教育を継承する、担い手を養成する	(1)	イエズス会教育を継承する担い手を養成するための機会提供、資料収集、研修会などを企画・実践する	<p>イエズス会教育について、少なくとも一人の教職員に専門的に学ぶ機会を提供する</p> <p>カトリック・イエズス会センターと協力して、イエズス会教育を学ぶ資料を豊かにし、随時研修できる機会を設ける</p> <p>イエズス会中等教育推進委員会(JSEC)が中心となって、研修会を継続的に行う</p>	<p>・イエズス会教育もしくはカトリック教育に関するテーマによる教員研修会の実施</p> <p>・毎月一回校長が主催する新任教員研修会の継続的実施</p> <p>・JSECの研修会実施への協力</p>
	3.	上智大学との繋がりを持ち続ける	(1)	イエズス会学校で学ぶ生徒が“Ignatian Leadership”を身につけることができる機会を、上智大学が持つresourcesを積極的に活用できるようにする	<p>さまざまな学部と連携して、生徒が在学中に専門的な知識を学ぶことができる機会を設ける</p> <p>アジア人材養成研究センターなどの大学内の研究機関と連携して、世界のさまざまな課題を学び、体験できる機会を設ける</p>	・大学で行われる高校生が参加可能なワークショップの情報周知徹底
	学校別課題	4.	教育目標や教育内容、及び学校施設などの本校の特色をよりよく理解してもらったうえで選ばれるようにする			
5.		学校施設の修繕計画に基づき教育環境の整備を行う				<p>・諸老朽施設の改修推進</p> <p>・諸施設のLED化の促進</p>
6		時代の変化に対応する必要がある部分に関しては、校内諸規程の見直し検討を行う				・教務内規(成績評定・進級規程等)の改定と実施に向けた継続的検討

六甲学院

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2024年度
4 校 共 通 課 題	1.	イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う	(1)	カトリックであること	意思決定を行うプロセス(共同識別)に健全に参加する雰囲気を学校内につくる	・教員間への浸透および共通理解を深めるための講話や研修機会の設定	・キリスト教的・イエズス会教育的な価値観に接し、理解を促進する機会の設定
			(2)	安全で健康的な環境をつくる	ハラスメントのない学校環境をつくる 教職員の働き方を検討する Cura Personalisを徹底する	・「一人ひとりを大切に教育」の実践に向けた、日常的な学校生活および行事における人権面での具体的な配慮の検討・実践 ・コロナ禍後の生徒への理解・配慮や「ハラスメント」等に関する教員研修の実施 ・同趣旨による生徒へのアンケートの改定 ・教職員の人員面・勤務時間面における具体的な配慮の検討・実践 ・阪神淡路大震災を経験した学校として命の大切さを生徒たちに伝える機会の設定 ・研修旅行や社会奉仕活動等を通じた東日本大震災の事実・教訓に学ぶ防災教育の実施	
			(3)	Global市民の育成	生徒がGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができるカリキュラムを構築する 生徒が世界のGlobal化を体験する機会を設ける 生徒の英会話能力を向上させる 多くの社会問題がGlobalなものであることを理解し、解決する策を考える機会を設ける	・世界的課題に取り組む学習機会の設定(シンガポール・マレーシアへの高2研修旅行、ニューヨーク研修、インド訪問等の海外研修の実施、オンライン海外交流等)	
			(4)	被造物に対する配慮	地球環境の問題を深く学ぶカリキュラムを構築する 地球環境保全のために実践できることを行う	・地球環境への配慮・行動変容を促す教育機会の設定	
			(5)	正義の促進	“For Others, With Others”の真の意味を学ぶ機会を設ける “Others”とされる人々と直接触れ合う機会を設ける “Others”と呼ばれる人々がなぜ生まれるのかを深く学び、“Others”の問題を解決するためにどんな方策があるかを考える場を設ける	・世界の貧困や不正な社会に具体的に接し、考える機会の設定 ・フィールドワークから、課題解決に向けた探究学習としての卒業論文までの教育サイクルの確立 ・卒業論文作成過程における、卒業生や上智大学からの学習支援相談 ・インド訪問実施 ・文化祭・報告会・報告記等で支援施設の現状を伝え、インド募金の意義を確認。 ・For Others, With Others を生徒に根付かせるための取組の検討・実践	
			(6)	全ての人がアクセス出来る	学校納付金の適正なあり方を検討する 奨学金を充実させる 近隣の人々に開かれた学校とするための方策を考える	・奨学金の充実 ・イエズス会教育の教育活動に関する寄付金制度(六甲未来募金)の具体的な検討および実施 ・近隣住民との良好な関係の構築と保持	
			(7)	文化相互性	自国の文化を深く学び、世界の多様な文化を知る機会を設ける	・授業・行事における日本の歴史・文化を学ぶ機会の設定 ・国際交流の場における自国の文化を紹介する機会の設定 ・海外の同世代の生徒から他国の文化を知り、世界の民族や文化の多様性について理解する機会の設定	

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2024年度
4校共通課題			(8)	Globalネットワークに結ばれる	イエズス会学校の“Educate Magis”を積極的に活用し、また、その活動に参加する イエズス会学校関係以外にも、適切な教育機関などのNetworkに積極的に繋がる	・海外研修への経済支援具体策の検討 ・高校生のイエズス会学校への留学制度を設けるための検討の構築 ・国際ISLFの実現・参加に向けた4校間の協力体制の構築 ・海外姉妹校からの生徒訪問や短期留学生の積極的受け入れに向けた検討 ・イエズス会教育実践に係る意識醸成機会創出の検討(ニューヨーク研修、インド訪問、カンボジア研修で姉妹校訪問・交流企画の実施、オンライン交流機会の活用等) ・カトリック学校共同の研修会への参加促進 ・各研修会の趣旨に即した教員世代別の活用方法の検討・実践 ・生徒の近隣カトリック学校との合同研修会・交流会企画への参加促進	
			(9)	人間としての卓越性を追求する	「4つのC」を身につけることができる6年間の教育プログラムをつくる	・「他者に仕えるリーダーシップ」の養成に向けた、行事・学習活動の見直しや整理・体系化を検討する場の設定 ・イエズス会教育の日常の実践に向けた、「六甲手帳」活用を根付かせる取組の推進	
			(10)	生涯学び続ける	卒業後も学校と関わりを持ち続けることができる組織をつくる 同窓会、同期会などを通して、学校で学んだことを振り返り、分かち合う機会を設ける 日本のみならず世界のイエズス会同窓会組織と結びつきを持ち、イエズス会教育に関する情報を共有できるようにする	・進路の日・OB講演会・職場訪問等の行事への卒業生の協力と、生徒の将来に向けて進路を考える機会の設定 ・4校の卒業生組織が世界のイエズス会学校・イエズス会卒業生とつながる機会の構築	
	2.	イエズス会教育を継承する、担い手を養成する	(1)	イエズス会教育を継承する担い手を養成するための機会提供、資料収集、研修会などを企画・実践する	イエズス会教育について、少なくとも一人の教職員に専門的に学ぶ機会を提供する カトリック・イエズス会センターと協力して、イエズス会教育を学ぶ資料を豊かにし、随時研修できる機会を設ける イエズス会中等教育推進委員会(JSEC)が中心となって、研修会を継続的に行う	・すべての教職員がイエズス会教育の担い手であることを自覚するための講話や研修機会の設定 ・勤務を継続しつつオンラインによるイエズス会教育研修機会の可能性模索 ・イエズス会教育継承者の担い手養成を四校会と上智大学院合同で検討する場の設定	
	3.	上智大学との繋がりを持ち続ける	(1)	イエズス会学校で学ぶ生徒が“Ignatian Leadership”を身につけることができる機会を、上智大学が持つresourcesを積極的に活用できるようにする	さまざまな学部と連携して、生徒が在学中に専門的な知識を学ぶことができる機会を設ける アジア人材養成研究センターなどの大学内の研究機関と連携して、世界のさまざまな課題を学び、体験できる機会を設ける	・上智大学の教員による学習機会の検討議(倫理・宗教・人間学等をテーマにした専門的な講義および社会正義・環境課題・識別等、UAPsと関わる講義等) ・上智大学主催のワークショップ・講座・公開企画に生徒が姉妹校生徒と共に参加する方策の検討	
	学校別課題	4.	教育目標や教育内容、及び学校施設などの本校の特色をよりよく理解してもらったうえで、選ばれる学校であり続ける				
	5.	時代の変化に対応する必要がある部分に関しては校内諸規定等の見直し検討を行う					
	6.	学校施設の修繕計画に基づき教育環境の整備を行う					

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2024年度
4 校 共 通 課 題	1.	イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う	(1)	カトリックであること	意思決定を行うプロセス(共同識別)に健全に参加する雰囲気を学校内につくる キリスト教的価値観、普遍的価値を知り、コミットすることができる倫理・宗教教育を実践する	・各会議を通じた意思疎通の強化 ・イグナチオ的教授法に基づいたイエズス会教育、特に「内省」の実践	
			(2)	安全で健康的な環境をつくる	ハラスメントのない学校環境をつくる 教職員の働き方を検討する Cura Personalisを徹底する	・職員研修におけるハラスメントに関する研修の実施 ・体罰、いじめ、ハラスメントに関するアンケートの実施 ・カウンセリングドクター・学校カウンセラー、学習支援室(room-w)、保健室等と連携によるカウンセリングの推進	
			(3)	Global市民の育成	生徒がGlobalizationの意味や問題を学ぶことができるカリキュラムを構築する 生徒が世界のGlobal化を体験する機会を設ける 生徒の英会話能力を向上させる 多くの社会問題がGlobalなものであることを理解し、解決する策を考える機会を設ける	・フィリピン(8月)・カンボジア(12月)・アメリカ(3月)の国際交流プログラムの実施 ・英語の授業におけるオンラインスピーキングトレーニングの実施 ・中3ILにおける世界の貧困や差別、紛争と難民などの問題について学ぶ機会の設定	
			(4)	被造物に対する配慮	地球環境の問題を深く学ぶカリキュラムを構築する 地球環境保全のために実践できることを行う	・IL、教科の内容から地球環境や環境保全の問題に係る考察の実践 ・美化委員会活動の充実	
			(5)	正義の促進	“For Others, With Others”の真の意味を学ぶ機会を設ける “Others”とされる人々と直接触れ合う機会を設ける “Others”と呼ばれる人々がなぜ生まれるのかを深く学び、“Others”の問題を解決するためにどんな方策があるかを考える場を設ける	・中1ILにおけるイエズス会のミッションに関する学びの実施 ・中2ILにおける障がい者の立場や支援方法に係る体験的な学びの実施 ・中3ILにおける世界の貧困や紛争などで困っている人々についての学びの実施 ・中学3年生の街頭募金への参画 ・高校生によるフィリピン・カンボジアとの国際交流 ・被災地や釜ヶ崎、児童養護施設などにおけるボランティア活動への参加と奉仕精神の実践 ・生徒活動と連携した地域ボランティア活動の推進	
			(6)	全ての人がアクセス出来る	学校納付金の適正なあり方を検討する 奨学金を充実させる 近隣の人々に開かれた学校とするための方策を考える	・経済的困窮度の高い生徒に向けた奨学金充実 ・広島学院未来募金の創設 ・広報部におけるSNSを活用した学校情報の発信	

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2024年度
4 校 共 通 課 題			(7)	文化相互性	自国の文化を深く学び、世界の多様な文化を知る機会を設ける		<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・古典の授業における自国文化に関する理解の深化 ・行事の準備授業における自国および国際理解の深化
			(8)	Globalネットワークに結ばれる	イエズ会学校の“Educate Magis”を積極的に活用し、また、その活動に参加する イエズ会学校関係以外にも、適切な教育機関などとのNetworkに積極的に繋がる		<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流を行う学校との相互留学の際の発表、プレゼンや交歓会を通じたの交流実施
			(9)	人間としての卓越性を追求する	「4つのC」を身につけることができる6年間の教育プログラムをつくる		<ul style="list-style-type: none"> ・ILプログラムの充実
			(10)	生涯学び続ける	卒業後も学校と関わりを持ち続けることができる組織をつくる 同窓会、同期会などを通して、学校で学んだことを振り返り、分かち合う機会を設ける 日本のみならず世界のイエズ会同窓会組織と結びつきを持ち、イエズ会教育に関する情報を共有できるようにする		<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭ホームカミングデーの活用 ・翠友会(同窓会組織)との連携
	2.	イエズ会教育を継承する、担い手を養成する	(1)	イエズ会教育を継承する担い手を養成するための機会提供、資料収集、研修会などを企画・実践する	イエズ会教育について、少なくとも一人の教職員に専門的に学ぶ機会を提供する カトリック・イエズ会センターと協力して、イエズ会教育を学ぶ資料を豊かにし、随時研修できる機会を設ける イエズ会中等教育推進委員会(JSEC)が中心となって、研修会を継続的に行う		<ul style="list-style-type: none"> ・JSEC委員による活動やJSEC研修の活用 ・カトリックイエズ会センターとの情報交換、連携 ・若手教員フロンティア研修(ボランティア・社会正義活動の視察)の活用 ・定期的に司祭との研究会を実施 ・国際交流の部署と連携した引率教員の研修 ・各種テーマ別教員研修への参加
	3.	上智大学との繋がりを持ち続ける	(1)	イエズ会学校で学ぶ生徒が“Ignatian Leadership”を身につけることができる機会を、上智大学が持つresourcesを積極的に活用できるようにする	さまざまな学部と連携して、生徒が在学中に専門的な知識を学ぶことができる機会を設ける アジア人材養成研究センターなどの大学内の研究機関と連携して、世界のさまざまな課題を学び、体験できる機会を設ける		<ul style="list-style-type: none"> ・上智大学教員・学生団体と必要に応じた連携活動の実施 ・IL、教科、いのちの教育等、カリキュラム内容に応じた協力依頼 ・行事等を通じて留学生との交流を図り、互いの理解を基本にした学びの場を創出

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP	2024年度	
学校別課題	4.	生徒の進路志望を実現させる学校になる(生徒の学力向上に常に努める／men for others の理解に導く)				<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム表の提出による授業内容の精査、検討 ・各教科における生徒間の学力格差に応じた教科指導のあり方の検討 ・ICT教育に関する情報の発信 	
	5.	生き生きと過ごせる学校になる(様々な挑戦の機会を作る)				<ul style="list-style-type: none"> ・部活動について生徒指導部を中心に情報収集 	
	6.	1人1人が「ここを居てもいい」という実感の持てる学校になる(生徒1人1人の持つ特性や環境に可能な限り配慮する)				<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談係と学年の情報交換および連携の実践 ・生徒面談等に基づく関係教職員による情報交換の実施 	
	7.	ICTを有効に活用する(ICT委員会を中心に、課題を検討し、有効活用を推進する)				<ul style="list-style-type: none"> ・ILや探求学習の際のICT活用とプレゼンの活性化 ・AI活用の可能性についての研究 	
	8.	施設設備の経年劣化への対応を推進する				<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備計画の推進 	

上智福岡

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	共通AP(C-AP)		2024年度
4 校 共 通 課 題	1.	イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う	(1)	カトリックであること	意思決定を行うプロセス(共同識別)に健全に参与する雰囲気を学校内につくる キリスト教的価値観、普遍的価値を知り、コミットすることができる倫理・宗教教育を実践する		<ul style="list-style-type: none"> 意見の吸い上げ・応答プロセス(意思決定プロセス)に関する各種取組の継続実施 SFOの観点を踏まえて刷新した新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善
			(2)	安全で健康的な環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメントのない学校環境をつくる 教職員の働き方を検討する Cura Personalisを徹底する 		<ul style="list-style-type: none"> 意見の吸い上げ・応答プロセス(意思決定プロセス)に関する各種取組の継続実施 法人の協力によるハラスメント研修の実施 ハラスメントの相談窓口に関する情報掲載・周知の徹底 教職員の働き方改革の推進と関連規程・規則の改定 管理職による教職員ヒアリングの継続実施と運営協議会内における情報共有
			(3)	Global市民の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒がGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができるカリキュラムを構築する 生徒が世界のGlobal化を体験する機会を設ける 生徒の英会話能力を向上させる 多くの社会問題がGlobalなものであることを理解し、解決する策を考える機会を設ける 		<ul style="list-style-type: none"> グローバルの観点を踏まえて刷新した新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善 海外への語学研修およびカンボジアスタディーツアーの実施 マイクロネシアスタディーツアー開始に向けた準備 海外姉妹校相互交流部署の拡充と交流活動の実施 中3語学研修、英語唱会・スピーチ大会、英語科研究授業などの継続的実践
			(4)	被造物に対する配慮	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境の問題を深く学ぶカリキュラムを構築する 地球環境保全のために実践できることを行う 		<ul style="list-style-type: none"> グローバルの観点を踏まえて刷新した新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善 SDGs推進担当者主導での生徒会・生徒・教職員による取り組みの検討と実施
			(5)	正義の促進	<ul style="list-style-type: none"> “For Others, With Others”の真の意味を学ぶ機会を設ける “Others”とされる人々と直接触れ合う機会を設ける “Others”と呼ばれる人々がなぜ生まれるのかを深く学び、“Others”の問題を解決するためにどんな方策があるかを考える場を設ける 		<ul style="list-style-type: none"> SFOの観点を踏まえて刷新した新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善 グローバルの観点を踏まえて刷新した新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善 宗教部におけるボランティア体験機会の実施 高1～3SFOカリキュラムへのボランティア体験の組み込みの検討
			(6)	全ての人々がアクセス出来る	<ul style="list-style-type: none"> 学校納付金の適正なあり方を検討する 奨学金を充実させる 近隣の人々に開かれた学校とするための方策を考える 		<ul style="list-style-type: none"> 次年度授業料改定に向けた準備 経済的理由で就学が困難な生徒への現存の奨学金制度の継続的適用 Instagramによる情報発信の継続

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	共通AP(C-AP)		2024年度
4 校 共 通 課 題			(7)	文化相互性	自国の文化を深く学び、世界の多様な文化を知る機会を設ける		<ul style="list-style-type: none"> ・海外への語学研修およびカンボジアスタディーツアーの実施 ・ミクロネシアスタディーツアー開始に向けた準備 ・日本文化理解の観点を踏まえて刷新した新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善
			(8)	Globalネットワークに結ばれる	イエズ会学校の“Educate Magis”を積極的に活用し、また、その活動に参加する イエズ会学校関係以外にも、適切な教育機関などとのNetworkに積極的に繋がる		・担当者による“Educate Magis”での活動紹介の増加と教職員の参加促進
			(9)	人間としての卓越性を追求する	「4つのC」を身につけることができる6年間の教育プログラムをつくる		<ul style="list-style-type: none"> ・SFOの観点を踏まえて刷新した新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善 ・グローバルの観点を踏まえて刷新した新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善
			(10)	生涯学び続ける	卒業後も学校と関わりを持ち続けることができる組織をつくる 同窓会、同期会などを通して、学校で学んだことを振り返り、分かち合う機会を設ける 日本のみならず世界のイエズ会同窓会組織と結びつきを持ち、イエズ会教育に関する情報を共有できるようにする		・生涯学び続ける場の創出に向けた同窓会との協議実施
	2.	イエズ会教育を継承する、担い手を養成する	(1)	イエズ会教育を継承する担い手を養成するための機会提供、資料収集、研修会などを企画・実践する	イエズ会教育について、少なくとも一人の教職員に専門的に学ぶ機会を提供する カトリック・イエズ会センターと協力して、イエズ会教育を学ぶ資料を豊かにし、随時研修できる機会を設ける イエズ会中等教育推進委員会(JSEC)が中心となって、研修会を継続的に行う		<ul style="list-style-type: none"> ・イエズ会教育について専門的に学ぶ研修企画への教員派遣に関する具体的検討の実施 ・国内外で実施されるイエズ会教員・生徒関連の研修企画への教員の派遣 ・教職員研修会におけるイエズ会・カトリック教育に関する学習・意見交換の実施 ・イエズ会教育に関する新任研修の継続と内容の充実に向けた検討
	3.	上智大学との繋がりを持ち続ける	(1)	イエズ会学校で学ぶ生徒が“Ignatian Leadership”を身につけることができる機会を、上智大学が持つresourcesを積極的に活用できるようにする	ささまざまな学部と連携して、生徒が在学中に専門的な知識を学ぶことができる機会を設ける アジア人材養成研究センターなどの大学内の研究機関と連携して、世界のさまざまな課題を学び、体験できる機会を設ける		<ul style="list-style-type: none"> ・Sophia GED企画担当教員を通じた、海外実践型教育への生徒の参加促進 ・上智大学出張授業の実施体制の刷新 ・中3理科課題解決学習を中心とするSFOの上智大学連携カリキュラムの刷新に向けた協議の再開検討

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	共通AP(C-AP)		2024年度
学校別課題	4.	高3の25%が現役で国公立大に合格する学校になる	(1)	シラバス・授業の質を向上させる			<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究日を含め各教科年2回の研究授業実施 ・授業研究日の設定(指導助言者の招聘と全教員の参観および検討会の実施) ・各教科における指導助言者の招聘の奨励
			(2)	理科力の強化を通して理系合格者を増やす			<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤実験助手採用の検討
	5.	充実した教育環境整備にむけ特別棟1階を改築する					<ul style="list-style-type: none"> ・校地整理計画の推進と寄附金募集方法の検討 ・特別棟1階のレイアウト変更の検討と実施
	6.	予算規模に適正な範囲で最大限の専任教員を計画的に採用する(学年所属教員8名を目指す)					<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員適正人数を検討したうえでの専任教員採用 ・国語1名の常勤講師採用
7.	創立100周年(2032年)に向けた準備を進める(記念行事の概要を固め、準備を進める)						

法人部門

GL3.0 (部門計画・アクションプラン)	2024年度事業計画
1. 持続可能な社会に貢献し、社会的責任を果たすための体制を強化する	
(1) カトリック・イエズス会教育の継承、浸透	
①イエズス会学校およびイエズス会教育の担い手を養成する 研修制度・プログラムを検討し、実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・上智学院教職員を対象とした本学独自のプログラムの検討及び実施 ・JSECとの連携による研修プログラムの検討 ・ISLF国内版および海外版の企画立案 ・カトリック学校連合会と協働したカトリック中等教育機関へのカトリック教育に係る支援の検討
②カトリック・イエズス会センターの体制を強化し、活動の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・カトリック・イエズス会センターの活性化および既存組織の検証、新規体制の構築 ・イエズス会およびカトリック教育を前提とした教職員対象企画の立案と実施 ・教職員および学生を対象とした「黙想会」「霊操体験研修」等の開催
③イエズス会および各学校間の連携を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ・イエズス会日本管区および関連組織との協働企画立案・実施 ・教皇フランシスコ来学記念基金を活用した社会貢献活動の実施と実施支援
(2) 上智学院および設置校の歴史の理解、継承、浸透	
①大学および中高4校のアーカイブス史料の継続的な収集・整理とデジタル化を推進し活用すると共に、収集・整理・活用を担う教職員（アーキビスト）を養成する	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・授業支援：実習、授業への資料提供 ・研究支援：研究者への情報共有を目的としたデータベース上での目録公開 ・学内での歴史文書等の情報共有方法の検討（新聞目次、写真目録等）
②アーカイブス史料を活用した自校史の編纂及び公表と共に、それらを活用した自校史教育・研修プログラムを検討し、実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・イエズス会員へのヒアリング ・ホームページの充実
③アーカイブス史料を活用し、ステークホルダーや地域・社会へ積極的に発信すると共に、コミュニケーション機会を拡大する	<ul style="list-style-type: none"> ・展示ワーキングの始動 ・大学内の様々な場所でキャンパス・地域・建物の変遷や関わり等を感じることができる仕組みの検討
(3) 経営判断の精緻化（IR活用型マネジメントの徹底および柔軟かつ迅速な意思決定の実現）	
①中長期計画の推進体制およびプロセスの確立、特に適切な進捗管理を実施し、環境変化に応じた柔軟な計画見直しプロセスを導入する	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員参加型による各部門単位での施策実行と情報共有の徹底 ・中長期計画進捗状況のモニタリング実施と進捗確認体制の確立
②IR志向教職員を育成すると共に、意思決定プロセスにおいてIRを活用したEBDM [※] の実践により、IR活用型マネジメントを実現する	<ul style="list-style-type: none"> ・政策決定、意思決定における各種IR分析・集計結果の活用
③社会変化に対応した新たな教育体制・支援体制を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的弱者を支援する教育プログラム実施に向けた具体的検討計画の策定 ・秦野キャンパスの将来的な利活用方策の検討
(4) ガバナンスの強化と、コンプライアンスおよびリスクマネジメントの徹底	
①権限・役割の明確化や意思決定プロセスの見える化の促進など、内部統制が有効に機能した学校法人運営体制を確立する	<ul style="list-style-type: none"> ・内部統制基本方針の策定（必要に応じて内部統制体制の構築） ・改正私立学校法に対応した寄附行為及び関連諸規程の改正
②法人運営・学校運営を担うマネジメント人材を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ・理事及び評議員選任機関の設置準備 ・理事、評議員、監事向けの研修機会の提供
③コンプライアンスを徹底し、実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス規程の制定 ・研修の重点テーマの設定、研修内容の企画立案・実施
④組織的かつ計画的なリスクマネジメント（リスクの未然（再発）防止、BCPを含む危機対策の事前準備）を推進し、精度向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントのPDCAサイクル（重要リスクの選定、対策の実施、実施状況の評価、改善）の実施 ・進捗不振の重要リスクの対策推進 ・（必要に応じて）内部統制体制との連携体制の構築 ・基幹ネットワークや教研系重要サーバのデータセンター移転 ・システムクラウド化によるBCP対応 ・攻撃型メール訓練による情報セキュリティ意識の向上 ・セキュリティの高い多要素認証の導入

GL3.0 (部門計画・アクションプラン)	2024年度事業計画
(5) ステークホルダーとの連携強化 (繋がりをもつ継続的かつ効果的なコミュニケーションの実現)	
①自治体・企業・各種団体との新たな連携した事業を検討し、地域貢献・社会貢献を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都・千代田区等の近隣自治体（行政）からの期待やニーズに関する情報収集と実態把握・連携形態の検討 ・既存の地域課題に対する学生による社会貢献活動（改善提案・ボランティア活動など）の発展と新規交流・協力事業の検討
②情報公表方法・媒体などを再検討し、戦略的なパブリックリレーションズを展開する	<ul style="list-style-type: none"> ・公式サイトの上安定運用に向けた改善継続 ・法人サイトリニューアル ・学部・研究科サイトリニューアル（2年目）
③学院内の情報収集・管理、情報公表に関する体制を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・「上智学院広報」の見直し ・学院内のコミュニケーション向上施策検討 ・文書等管理規程等の関連規程の見直し
④卒業生・同窓生との対話を促進し、連携した事業・教育プログラムを展開する	<ul style="list-style-type: none"> ・母校への帰属・支援意識を促進する対話型イベントの実施 ・卒業生活躍情報のタイムリーな獲得体制の確立および該当卒業生との接点作りの強化
2. 豊かな学びを支える安心・安全・快適なキャンパス環境を整備する	
(1) 全ての人々に寄り添い、ひとりひとりを大切に作る組織・風土の実現	
①ユニバーサルデザインを実現するために新たな施策を実現する	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスサイン計画の推進（建物表示・フロアマップ） ・キャンパス内植栽計画の推進
②DEI&Bを更に推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・ウーマンエンパワメントを推進する学内諸制度の広報強化、制度改善の取り組み実施
③教職員・学生・生徒に対する意識改革に資する企画・プログラムを実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・学生および生徒／教職員の連携、企業・自治体等の学校外組織との共働による企画の実施 ・上智学院中等教育部門4校生徒と上智大学生の合同研修会実施 ・四谷キャンパス内における交流および学習スペースの整備
(2) インクルーシブかつサステナブルな学校・職場環境（施設・設備等）の整備（ラウドート・シを意識する）	
①カーボンニュートラル対応など、GX・SX・地球環境問題解決に貢献する学校環境を実現する	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物量の削減とリサイクルの推進 ・CO2削減のために高効率器具への更新を推進 ・再エネ100%持続に向けた取り組みの継続および積極的な情報発信
②すべての人々にとって安心・安全・快適な施設・設備を整備し、運用する	<ul style="list-style-type: none"> ・7号館改修に伴い、空調設備の更新やトイレのバリアフリー化を実施 ・改修工事等で既存の設備更新における地球環境問題を考慮した検討・選定の実施 ・2号館4階インクルーシブトイレの設置
③建物老朽化に伴う更新計画を立案し、実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・7号館改修の実施 ・四谷キャンパス南東地区の再整備検討
④各学校におけるDXを促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・DX推進の方針及び体制の検討、決定 ・事務部署での生成AI活用を拡大するための勉強会の実施 ・2025年度の事務系基盤システム更新準備の推進（新しい形の仕組みに関する概要計画策定）
3. 教育研究の持続的発展を可能とする財務基盤をより一層強化する	
(1) 奨学金等基金、キャンパス整備、戦略的な教育研究事業に対する財源の確保	
①学生支援及び研究促進のための基金を拡充する	<ul style="list-style-type: none"> ・関係部署へ中長期予算計画を依頼し、必要額及び時期を把握 ・中長期予算計画をふまえた計画的な組入
②安心・安全・快適なキャンパス整備のための減価償却引当特定資産を積み増す	<ul style="list-style-type: none"> ・関係部署へ中長期予算計画を依頼し必要な金額と時期を把握 ・中長期予算計画をふまえた計画的な組入
(2) 財政基盤強化を可能とする経常収支差額の確保（収支バランスの最適化）	
①安定的な収入を確保するとともに、最適収支バランスを目指した予算策定を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・予算決算の乖離状況分析 ・実質購買力維持のための適切な学費改定と費目統合の継続的検討 ・基盤整備に必要な中長期予算計画をふまえ、支出額の平準化のための流動的な特別予算枠設定の検討 ・GL3.0推進に必要な予算を確保するため経常予算の削減実施
②積極的な募金活動を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画にリンクした使途メニューの開発 ・資金調達に要する事業にかかる情報収集・実態把握・寄付募集の検討 ・学内執行部への理解・賛同による獲得プロセスへの参画促進

GL3.0 (部門計画・アクションプラン)	2024年度事業計画
③学生生徒等納付金以外の収入を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ・基本ポートフォリオに基づくリスク管理と中長期目標リターンの確保 ・投資リターンと社会的リターンの両立 ・責任投資に関する情報開示の充実 ・効率的な施設貸出業務の運営
④経費削減を恒常的に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルへの対応に伴うコスト増抑制策の検討継続
4. 組織力を高める人事政策を実行する	
(1) 各設置校における教育・研究力をさらに高める新しい組織・制度の整備	
①多様な人材を確保し、教学組織の中長期計画実現を支援する	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準改正（教育研究実施組織の編成、教職協働の実質化）への対応を含め、教学執行部との方向性確認を前提とした教学組織（学部学科、研究科、研究所）の再編案の提言 ・教学組織（学部学科、研究科、研究所）の自律性を尊重した組織目標設定・評価及び管理の制度設計
②上智学院の目指す教育、研究、学校運営、社会貢献を推進するための職員のパフォーマンス向上を実現する施策を展開し、経営支援機能を強化する	<p>職員の帰属意識を高める人事諸制度の見直し（採用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学院運営における重点領域への職員配置を実現する戦略的採用施策の展開 ・改革推進を目的とした専門職型経験者採用の実行 ・人材の多様化による組織の活性化 <p>（教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織開発方針に則したSDの実行（課題発見/設定、解決型人材育成） <p>（配置）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来のコア人材育成の実現 <p>（評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任職員の職層等級と配置の最適化 <p>（処遇）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務を通じた人材育成の実現と組織内コミュニケーションの活性化 ・成果に報いる報酬制度の策定と実行
③教職員の帰属意識を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・SDを通じた働きがい・働きやすさを実現する施策の立案と実行 ・部署横断、教職協働、プロジェクト型業務の推進によるイノベーションの推進 ・健康経営（安全・衛生、心身の健康）を意識した施策の立案と実行
(2) 将来的な財務状況を踏まえた人事計画の策定と実行	
①上智学院の持続可能な発展に資する人事施策を実行する	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な動向を踏まえた、総額人件費構造にかかわるあるべき姿の検討 ・学院の運営コストの最適化にかかわる施策の実行 ・職員の生産性向上策の実行
②学院および大学等の発展に資する人事計画の実行を支援する	<ul style="list-style-type: none"> ・教学部門の人件費管理方針（経常収支差額、人件費比率、人件費依存率等のモニタリングと長期予測を踏まえた）の策定及び執行状況の評価 ・大学が取り組む新たな事業への戦略的な人件費配分案の策定支援 ・許容可能な総額人件費の観点に基づく、事業継続を判断する基準の策定
③労働行政の動向を踏まえた人事施策を実行する	<ul style="list-style-type: none"> ・労働時間管理の適正化による人件費増加への対応施策の立案 ・同一労働同一賃金等への対応に伴う人件費増加への対応策の立案と実行 ・社会保険料、労働保険料等の法人負担率上昇への対応策の立案 ・高齢者雇用安定法改正に対応した人事施策の立案
(3) 中等教育部門と高等教育部門との連携を深める	
①人事・労務管理にかかわる課題へ対応する	<ul style="list-style-type: none"> ・中等教育部門における諸課題の整理と解決策の実施
②中等教育事務室の機能を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ・専門領域に応じた専任職員の兼務発令 ・中等教育部門、高等教育部門との人事交流施策の立案と実行

2024年度予算編成の基本方針

【はじめに】

今年度から修正予算の仕組みが廃止されたことに伴い、これまでのような年度途中において予算を変更することは、天変地異など特別な事由によるものを除き困難になります。ついては、2月に決定する予算は、来年度の事業計画に基づき確実に執行可能な額を積算する必要があります。

【基本方針】

「上智学院グラウンド・レイアウト3.0」における重要課題を推進するためには、限られた財源のなかで最適な予算配分を行う必要があります。

重要課題に基づく新たな教育研究の展開や、キャンパス整備計画（中等教育部門を含む）に基づく教育研究環境の整備改善を確実に進めるためには、新規プログラムに対する適否の判断だけでなく、既存事業とその予算を今一度見直し、既得権・前例・慣習等にとらわれることなく、必要最低限の予算を編成するとともに、適正かつ公正に執行しなければなりません。

また、学校法人の収支は均衡していることが求められており、本学院においても当年度収支差額の均衡に努め、財政の健全化を図ることが重要な課題です。

以上を踏まえ、来年度の予算編成に当たっては、以下の点を基本方針といたします。

1. 事業計画に則った予算立案と適正執行

学校法人上智学院の重要課題と財政状況を踏まえ、適切な事業計画を策定し、これに則った適正な予算を立案し、財源が学納金や国庫補助金等であることを認識し、適正かつ公正な予算の執行に努める必要があります。

2. 重要課題への予算の重点化

「上智学院グラウンド・レイアウト3.0」に示される重要課題に係る教育研究活動及び基盤整備等の諸施策に対して重点的に予算を配分します。

3. 収支改善による収支均衡の実現

業務の見直しによる効率化を更に徹底し、収支の均衡に一層努めます。

また、各事業の収支を的確に把握し、不採算事業の不断の見直しを図るとともに、収入増加策及び支出削減策を推進することとします。

4. 経費削減と最小予算による最大効果の発揮

教育・研究活動に係る経費は、新たな取り組みを積極的に推進するため、既存事業の経費削減を「聖域」なく検討・実施することとします。

また、限られた予算の効果的な使用と恒常的経費の削減にさらに努め、より少ない予算でより大きな効果を得られるよう創意工夫することとします。

5. 人件費支出の適正化

事業の「選択」と「集中」を促進し、業務の合理化・効率化・外部委託化等により、人件費支出の適正化を図ります。

6. 学費収入の確保

文部科学省の入学定員管理の厳格化や18歳人口の減少が進む中、財政的根幹を成す学費収入を如何にして安定的に確保するのか、これを重要課題として取り組むこととします。

7. 外部資金の積極的な獲得

外部資金の獲得を積極的に進めるとともに、新たな取り組みを含めた諸活動の財源については、自ら確保することを原則とします。

8. 学内研究費制度の実績評価と最適化

研究活動にかかるP D C Aサイクルの一環として行われる研究評価委員会による評価結果等を踏まえ、創出された研究成果の発信状況や研究費制度の活用状況等に鑑みた制度の見直し及び運用改善を図ります。研究拠点の形成・確立とともに、研究成果発信の促進及び若手研究者の育成支援を重要課題として認識し、研究費制度の最適化をさらに進めていきます。

9. 部門別及び目的別収支管理による選択と集中の推進

安定的な財政基盤を構築し、「上智学院グランド・レイアウト3.0」に示される重要課題を円滑に推進するためには、部門別及び目的別の収支状況を適切に把握し、評価・見直しを常に行うことにより、選択と集中を進めることが不可欠であり、今後とも部門別・目的別に予算申請を行うこととします。

以 上

2024年度資金収支予算（学院）

（単位：千円）

収入の部	
科 目	2024年度予算
学生生徒等納付金収入	19,854,217
手数料収入	984,300
寄付金収入	772,772
補助金収入	4,143,262
資産売却収入	2,950,000
付随事業・収益事業収入	1,204,865
受取利息・配当金収入	733,972
雑収入	964,513
借入金等収入	0
前受金収入	4,533,139
その他の収入	6,958,862
資金収入調整勘定	△ 5,026,975
前年度繰越支払資金	9,753,790
収入の部合計	47,826,717

支出の部	
科 目	2024年度予算
人件費支出	15,871,429
教育研究経費支出	7,799,736
管理経費支出	1,740,642
借入金等利息支出	75,707
借入金等返済支出	965,488
施設関係支出	1,709,128
設備関係支出	1,584,087
資産運用支出	7,848,628
その他の支出	754,331
〔予備費〕	225,600
資金支出調整勘定	△ 491,240
翌年度繰越支払資金	9,743,181
支出の部合計	47,826,717

2024年度事業活動収支予算（学院）

（単位：千円）

		科 目	2024年度予算
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	19,854,217
		手数料	984,300
		寄付金	719,668
		経常費等補助金	4,107,062
		付随事業収入	754,865
		雑収入	964,513
		教育活動収入計	27,384,625
	支事業の活動の部	人件費	15,803,259
		教育研究経費	10,296,910
		管理経費	1,951,135
		教育活動支出計	28,051,304
教育活動収支差額			△ 666,679
教育活動外収支	収事業の活動の部	受取利息・配当金	733,972
		その他の教育活動外収入	450,000
		教育活動外収入計	1,183,972
	支事業の活動の部	借入金等利息	75,707
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	75,707
教育活動外収支差額			1,108,265
経常収支差額			441,586
特別収支	収事業の活動の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入（施設設備指定分及び現物寄付含む）	172,697
		特別収入計	172,697
	支事業の活動の部	資産処分差額	229,492
		その他の特別支出	0
		特別支出計	229,492
特別収支差額			△ 56,795
【予備費】			225,000
基本金組入前当年度収支差額			159,791
基本金組入額			△ 2,278,950
当年度収支差額			△ 2,119,159
前年度繰越収支差額			△ 9,834,571
基本金取崩額			0
翌年度繰越収支差額			△ 11,953,730
（参考）			
事業活動収入計			28,741,294
事業活動支出計			28,581,503
事業活動収支差額			159,791